

ドイツ×わかやま

ご当地エネルギーのとりくみから 見えてきたこと

～ 市民共同発電の今と、これからの電力自由化 ～



今、電力自由化を前に様々な変化が日本でも起こってきています。

なぜ、市民や地域が主体となって再生可能エネルギーを進めるのでしょうか。

【グローバルな視点から】ドイツに5年間、市民がつくるエネルギーについて見聞された**手塚氏**、

【ローカルな視点から】和歌山県内で1年前に市民発電事業をスタートさせた**安原氏**と**宇田氏**、

の3名を迎え、具体的な事例についてお伝えします。

また、第2部では、「電力自由化以降は再エネ電力を購入できるか？」についても考え、

「つくる側」「使う側」それぞれの立場から意見交換も行います。

第1部

◆ 基調講演 ◆

「広がる！ 地域・市民が主役の発電所づくり、その意義と最新情報 ～ドイツと日本の事例～」

市民エネルギーとっとり 代表 手塚 智子 氏

◆ 県内のとりくみ事例から ◆

「持続可能型農業の現場から食を通して命とエネルギーをつなぐ てんとうむしプロジェクト」

紀ノ川農業協同組合 組合長 宇田 篤弘 氏

「串本のサンゴの海を守る活動を支援する市民共同発電所づくり」

一般社団法人南紀自然エネルギー 理事 安原 克彦 氏

第2部

◆ ディスカッション ◆

「電力自由化目前！ これからのエネルギーとどう向き合い関わり合っていくか」

◆日時：2015年12月19日(土) 13:30～16:15 (予定)

◆場所：県民交流プラザ・和歌山ビッグ愛 9階 (和歌山市手平2-1-2)

◆対象：これからの市民エネルギー・再生可能エネルギーに関心をもつ市民・学生

◆定員：50名 ◆参加費：無料 ◆申込締切：12月11日(金)

◆申込/問い合わせ先：NPOわかやま環境ネットワーク (平日10～17時) まで

TEL (073-499-4734) もしくは E-mail (wenet@vaw.ne.jp) にて

お申込みは
お早めに！

◆主催：一般社団法人南紀自然エネルギー、紀ノ川農業協同組合、NPOわかやま環境ネットワーク

◆共催：和歌山県地球温暖化防止活動推進センター